

業務内容に関する質問

1. 大学職員として働くにあたり、定型的な業務と非定型的な業務があると思いますが、非定型的な業務が中心となる業務内容について教えてください。

どの業務にも定型的な業務、非定型的な業務がありますが、企画系の業務の方が非定型的な割合が多くなります。

あくまで一例ですが、

- 学生支援
- 国際
- 研究支援
- 産学連携

といった業務があります。

2. 部署によって異なると思いますが、どのような人たちとの関わりが多いですか。

学生支援に携わる部署であれば、学生や教員、保護者との関わりが多いです。イベント企画を含む部署なら企画・運営会社や講師（OB/OG 含め）など外部の方との関わりもあります。国際的な業務を行う部署では、海外の大学から来られた教員・学生と関わることもあります。部署によって全く違います。

3. 入職後、意外に思われた仕事内容

入職後に驚いたことは、大学職員の仕事が想像以上に多岐にわたっているということです。実際に働いてみると学生だけではなく教員や国・自治体、企業等の多くの方々と相手にしたり、大学運営に携わる機会もあり多種多様な業務を行っていることが分かりました。また、学生とかかわりが少ない仕事もあります。大学構内の施設維持管理に携わる仕事や、警備業務委託や清掃業務委託等の契約に関する仕事等、大学にまつわる仕事はさまざまです。大学職員といえば、窓口対応やキャリア支援といった学生と関わる部署が多いイメージでしたが、入職後は全くイメージが変わりました。

4. 部署異動はどのように行われるか、また、異動後の業務にどのように対応されてきたか

部署異動は、その人の経歴や能力、希望を考慮し行われます。異動後の業務は前任者の引継ぎを受けて行っていますが、わからないことがあれば上司と相談して進めています。また、異動前の経験を基に既存の業務へ疑問を投げ、改善を図ることもあります。

5. 仕事をしていて大変だったことや印象に残っていること やりがい

他大学と合同でイベント企画・運営に携わった時は、他大学との調整や会場準備、リハーサル等が大変でした。ただその分、外部の様々な方との交流を通じ、良い意味でカルチャーショックを受けたり、イベントの趣旨・狙い通りに収穫を得る学生を見て、喜びや活力をもらえました。イベントをきっかけに知った企業に就職先を決めた学生もお

京都工芸繊維大学業務説明会
-寄せられた質問への回答-

り、学生から直接お礼を言われた時はうれしかったです。貴重な経験だったと思います。

面接・採用選考に係る質問

6. 面接で聞かれた質問

国立大学と私立大学の違い、理想の上司像、本学への志望理由やイメージ、具体的な転職理由を聞かれました。

7. 採用選考までの準備に関するアドバイスをお聞きしたいです。

採用選考はあなたと組織のマッチングの場ですので、お互い正直にコミュニケーションができていくことが必要です。あなたを見せていただければと思います。本人の適性や能力と本学の組織構成を鑑み、採用するかどうか決定します。

8. 面接で気を付けていたこと

自分がESに何を書いていたか、事前に確認していました。また面接で聞かれたことに対し、ただ用意した内容を暗唱するだけでなく、しっかり対話になるよう心がけていました。それから基本的なマナーについては、あまり過度に意識して不自然にならないようにしていました。

その他

9. 働きやすさ、職場環境、福利厚生

他大学よりも規模が小さい分、教職員の人数もそれほど多くないため、お互いの顔を覚えることができ、気軽に相談しやすいと思います。仕事をする上で相手の顔が見えるのはかなり大きいです。また職員同士の距離が近いので、昼休みに一緒に食事へ出かけたリ、同僚とスポーツをする人もいます。休暇は繁忙期を除けば、取りやすいと思います。産前産後休暇や育児休業制度等もあります。

10. 1日の業務スケジュール、待遇

説明会で配布した「大学事務ってどんな仕事？」に載せていますので、ご覧ください。

11. なぜ京都工芸繊維大学の職員を仕事に選んだのか。きっかけは。

元々大学の仕事に興味がありました。中でも小規模大学の方が、職員と学生・教員との距離が近く、自身の携わった業務のフィードバックを得やすいのではないかと、より仕事に対して裁量をもって仕事ができるのではないかと考えて狙いをつけました。その中でも、就職先を探していた際に本学を見つけて調べていくうちに、ものづくりに特化して社会に貢献する本学の取組に興味を持ちました。

京都工芸繊維大学業務説明会
-寄せられた質問への回答-

12. 大学職員として活躍している方の共通点

報連相ができていることはもちろんですが、コミュニケーションをとって自他の状況を適切に把握し、段取りを組んで物事を進められる人が活躍している印象です。学内外の様々な方と仕事をするので、自分だけでは仕事が回りません。

13. 京都工芸繊維大学を選んで良かったと思うこと

他大学よりも規模が小さい分、自分が担当している業務が直接大学の実績などにつながりやすい環境にあると思います。例えば、自分が携わった講演会やフォーラムが、大学のHPで公開されたり、後から見返しても「これは自分が担当した仕事だ」という意識を持つことができ、やりがいに繋がっています。また、教職員の人数もそれほど多くないため、お互いの顔を覚えることができ、スムーズに業務を進めることができます。

14. 求められる人物像

採用募集要項をご覧ください。